

3 結果を受けて

(1)各学年、各教科について

「令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書」(文部科学省 国立教育政策研究所)に示された設問ごとの観点に基づいて、本市としての課題等をまとめています。

なお、各観点ごとに以下のように示しています。

- 全国平均正答率を上回っている点
- △ 全国平均正答率を下回っている点

〈小学校6年生 国語〉

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- △ 話し言葉と書き言葉との違いを理解すること。〔1〕一〕
- △ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること。〔1〕二〕
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。〔3〕三〕

我が国の言語文化に関する事項

- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。〔3〕四〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

- △ 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること。〔1〕三〕
- △ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめること。〔1〕四〕

書くこと

- △ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。〔3〕一〕
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。〔3〕二〕

読むこと

- △ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。〔2〕一(1)〕
- △ 登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること。〔2〕一(2)〕
- △ 人物像や物語の全体像を具体的に創造したり、表現の効果を考えたりすること。〔2〕二、三〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を下回る設問が多い状況でした。

「知識及び技能」については、今後も確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個人の実態に応じた最適な支援を充実させることが大切です。

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の記述式問題においては、2問とも正答率が50%を下回りました。例えば、話し合いを計画する中で、話し合いの目的や方向性を検討する場面を設定したり、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理する方法を指導したりすることが効果的です。また、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える指導の充実も必要です。

また、全国と比して選択式問題の正答率が低いことも本市の特徴です。叙述をもとに、根拠を明らかにしながら正しい答えを選択する学習活動を設定するなどの工夫も必要です。

〈小学校6年生 算数〉

数と計算

- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること。〔1〕(1)〕
- 二つの数の最小公倍数を求めること。〔1〕(2)〕
- △ 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること。〔1〕(4)〕
- 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めること。〔3〕(1)〕

図形 ※プログラミング学習の内容を含む

- △ 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること。〔4〕(1)〕
- △ 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解すること。〔4〕(2)〕
- △ 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断すること。〔4〕(4)〕

変化と関係

- △ 百分率で表された割合を分数で表すこと。〔2〕(2)〕
- △ 数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること。〔2〕(3)〕
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること。〔2〕(4)〕

データの活用

- 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めること。〔3〕(1)〕
- △ 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること。〔3〕(2)〕
- 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ること。〔3〕(3)〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

「数と計算」については、今後も確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個人の実態に応じた最適な支援を充実させる必要があります。問題別では、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題が見られました。数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要です。

「図形」については、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解し、それを基に図形の構成の仕方について考察できるようにすることが求められます。また、本調査では「図形」領域でプログラミング学習の内容をふまえた問題が出題されました。示されたプログラムを正しく書き直したり、示されたプログラムでかくことができる図形を選んだりすることに課題が見られました。

「変化と関係」では、問題場面の数量の関係を捉え、基準量、比較量、割合の関係について理解し、数学的に表現・処理できるようにすることが重要です。具体的には、「果汁 20%の飲み物 500mL を 250mL ずつにわけても果汁は 20%のままである。」ことを、生活経験を基にした判断と、飲み物の量に対する果汁の量の割合を計算で求めた結果と関連付けて考えることができるかが大切です。

〈小学校6年生 理科〉

物質

- 実験器具の名称を理解すること。〔2〕(1)〕
- △ 実験器具の正しい扱い方を身に付けること。〔2〕(2)〕
- 水溶液を凍らせた物が水に沈んだという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問題を見いだし記述すること。〔2〕(4)〕

エネルギー

- △ 重ねた日光と的の温度についての問題を的確に把握し、問題を解決するために必要な結果を適切に記録したものを選択すること。〔3〕(2)〕
- 日光が直進するといった光の性質について理解すること。〔3〕(1)〕
- 実験で得た結果を、分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述すること。〔3〕(4)〕

生命

- △ 昆虫に関する問題を解決するために必要な観察の視点を基に、解決の筋道を構想すること。〔1〕(1)〕
- 昆虫の育ち方と食べ物についての表に、新たな情報を加えているときに気付いたことを基に、適切な問題を見いだすこと。〔1〕(5)〕

地球

- △ 天気と気温の変化を観察した結果を、分析して、解釈し、問題に正対した結論を導きだすこと。〔4〕(1)〕
- △ 水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解すること。〔4〕(4)〕
- 天気と気温について整理した資料を、分析して、解釈し、資料が示す部分を読み取ること。〔4〕(3)〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

自然の事物・現象に働きかけて得た事実や、観察、実験などで得た結果について、分析して、解釈し、新たな問題を見いだしたり、より妥当な考えをつくりだすことができるようにすることが重要です。例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられます。

また、知識をより深く理解できるようにすることも重要です。例えば、本市の課題として、「水が水蒸気になって空気中に含まれていること」を理解している児童の割合が、全国と比して大きく下回る状況が見られました。このような課題に対しては、問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することが大切です。例えば、水の状態変化についての問題を見いだし、冷たいコップに付着した水滴について、タブレット型端末などで動画や写真をなどを示し、指さしたり線で囲んだりしながら、「コップの外側に付いた水滴は、空気中の水蒸気がコップの表面で冷やされて液体の水になったものと考えられます。しばらくすると水滴が消えたのは、水滴が蒸発して水蒸気になり、見えなくなったということが考えられます。沸騰しなくても蒸発するのが不思議だと思いました。」などと捉え直し、理解を深める学習活動が考えられます。

〈中学校3年生 国語〉

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- △ 助動詞の働きについて理解し、文章の中で意図的に使うこと。〔2一〕
- △ 文脈に即して漢字を正しく書くこと。〔2二〕
- 文章の中で用いられている表現の技法について理解すること。〔3一〕
- △ 文脈の中における語句の意味を理解すること。〔3二〕

情報の扱い方に関する事項

- △ 引用の仕方や出典の示し方について理解し、書く活動の中で使うこと。〔2三〕

我が国の言語文化に関する事項

- 行書の特徴を理解すること。〔4一〕
- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること。〔4二〕
- △ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解すること。〔4三〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

- 具体的な助言を生かしてスピーチの表現を工夫すること。〔1一〕
- 意図を明確にして話し方の工夫を具体的に考えること。〔1三〕

書くこと

- △ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くこと。〔2三〕

読むこと

- △ 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること。〔3三〕
- △ 文学的な文章を読み、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈すること。〔3四〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

「知識及び技能」については、今後も確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個人の実態に応じた最適な支援を充実させる必要があります。また、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使えるようにする指導や、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書けるようにする指導が大切です。

「話すこと・聞くこと」については、自分の考えを聞き手に分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立ち、どのような工夫が必要なのか考え、工夫して話すことができるようにすることが必要です。第1学年では、相手の反応を踏まえながら、第2学年では、資料や機器を用いるなど、第3学年では、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、様々な工夫があることを理解し、実践できるように指導を重ねることが大切です。

問題形式については、選択式、短答式で全国の平均正答率を上回った一方、記述式については下回る結果となりました。自分の考えが分かりやすく伝わるように、根拠を明確にして記述することができるよう、系統的に指導することが必要です。

〈中学校3年生 数学〉

数と計算

- 自然数を素数の積で表すこと。〔1〕
- △ 簡単な連立方程式を解くこと。〔2〕
- △ 問題場面における考察の対象を明確に捉えること。〔6(1)〕
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。〔6(2)〕
- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること。〔6(3)〕

図形

- 反例の意味を理解すること。〔3〕
- △ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること。〔9(1)〕
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。〔9(2)〕

関数

- 一次関数の変化の割合の意味を理解すること。〔4〕
- △ 与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取ること。〔8(1)〕
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。〔8(2)〕

データの活用

- 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ること。〔3(3)〕
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解すること。〔5〕
- △ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。〔7(1)〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全設問14問中、9問で全国平均率を上回るという結果でした。

平均正答率が最も低かった領域は「図形」でした。合同条件を用いて筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題に大きな課題が見られました。結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりするなど、事柄が成り立つ理由を数学的に説明する活動を充実させることが大切です。

「データの活用」については、データの傾向を的確に捉える力、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力、分布の特徴を読み取る力などを身に付けることが求められます。そのために、ヒストグラムの特徴を比較して読み取り、判断の理由を数学的に説明したり、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取ったりする活動を充実させることが必要です。

問題形式については、選択式、記述式で全国の平均正答率を上回った一方、短答式で下回る結果となりました。このことから、連立二元一次方程式を正確に解いたり、三角形の合同条件を理解し、正しく書いたりするといった、「知識・技能」に関する点に課題があることがわかりました。基礎的、基本的な内容の確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個人の実態に応じた最適な支援を充実させる必要があります。

〈中学校3年生 理科〉

「エネルギー」を柱とする領域

- △ 静電気に関する知識を理解すること。1]
- △ 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画すること。[1](2)]
- △ 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を説明すること。[5](1)]
- △ 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能を身に付けること。[5](2)]
- 考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善すること。[5](3)]

「粒子」を柱とする領域

- △ 分子のモデルで表した図を基に、化学反応を化学反応式で表すこと。[3](1)]
- △ 粒子の保存性に着目し、化学反応に関わる物質の質量が変化しないことを分析して解釈すること。[3](2)]
- 状態変化に関する知識を概念的に理解すること。[7](1)]

「生命」を柱とする領域

- 節足動物の外部形態について調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈すること。[4](1)]
- 複数の脊椎動物の外部形態の考察において、あしの骨格の共通点と相違点を分析して解釈すること。[4](2)]
- △ 探求の仕方について検討し、探求の過程の見通しをもつこと。[8](2)]
- △ 未知の節足動物とアリの外部形態を比較して、分類の観点や基準を基に分析して解釈すること。[8](3)]

「地球」を柱とする領域

- 継続的に記録した空の様子画像や観測データを天気図と関連付けて、天気の変化を分析して解釈すること。2]
- △ 他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善すること。[2](3)]
- 過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考えを、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善すること。[6](2)]
- △ ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈し、主として時間的・空間的な視点で捉えること。[6](3)]

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全設問中のおよそ3割(21問中6問)が平均正答率40%を下回っており、本市としても同様の状況でした。領域、評価の観点、問題形式の各区分においても、全国と本市に大きな平均正答率の差はありませんでした。

指導改善のポイントとしては、例えば「粒子」を柱とする領域において、状態変化など「粒子」に関する知識及び技能と身近な現象を関連付けて探求する学習場面を繰り返し設定することで、日常生活や社会の場面で理科の知識及び技能を活用して、現象を説明する力を育成することができると考えられます。

各領域において、知識及び技能を活用して探究活動を行ったり、分析し、解釈して、説明したりすることを繰り返し行っていくことが大切です。

(2) 児童生徒質問紙調査結果より 〈小・中学校共通〉

- 米子市教育振興基本計画に関連する質問事項については、多くの点で全国の平均値を上回りました。
- 家庭と連携をしながら、家庭での学習習慣や生活習慣の確立に引き続き努める必要があります。特に、スマートフォンやコンピューターの使い方について、家庭での約束を守ることや、使用時間について見直すことは、喫緊の課題です。
- PC・タブレット端末などのICT機器については、小・中各学校で使用頻度に差があることがわかりました。全体として中学校では全国の平均値を大きく上回っていますが、小学校は下回っています。今後、「ひとまず使ってみる」「積極的に使う」ことはもちろん、さらにレベルアップを図り、指導の効果が最大限上がるような「効果的な活用」が必要です。
- 小・中学校共通して、学級をよりよくするための学級会、学級活動が行われ、さまざまな課題に対して互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていることがわかりました。
- 小・中学校が児童生徒の学力や生活習慣における課題の傾向を明らかにし、9年間の内容を系統化し、一貫した指導を行っていけるよう、小中一貫教育を推進していきます。

(3) 家庭では

児童生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

○基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。

→あいさつや食事、睡眠、朝食の摂取など規則正しい生活リズムを身に付けると、児童生徒の本来の力が発揮されやすくなります。

○家庭で学習する習慣を定着させましょう。

→各校で配布されている家庭学習の手引き等を参考に、学習する時間を見直してみましょう。継続して、計画的に学習することで、学力を定着させることができます。

○新聞を含め、家庭での読書活動をさらに勧めましょう。

→学校の図書館等に、児童生徒を対象とした新聞などもあります。特に新聞を読むと世の中の動きがわかり、社会的なものの見方や考え方が育まれるとともに、語彙力や表現力が身に付きます。

○日常生活の中で社会のルールやマナーを身に付けさせましょう。

→思いやりの心や社会性などの豊かな心を育むことができます。

○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加させたり、郷土の自然や文化にふれる体験をさせたりしましょう。

米子市(学校組合)教育委員会としましては、調査結果と他の調査結果を関連させて考察した上で、今後とも主体的・対話的で深い学びの実現にむけて取り組んでいきます。また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要ですので、今後さらに学校と家庭とが連携できるような取組を進めていきたいと考えています。